

(「地域情報化大賞」特別賞受賞)

地域の埋もれた魅力を浮上させる青森県観光モデル (NPO法人地域情報化モデル研究会(青森県青森市))

〔概要〕

地域の公共団体の保有する観光情報(オープンデータ)や、お店など地域住民からの旬な情報などの官民の地域情報資源を観光クラウドとして集結しました。それらデータを県内の公共観光サイトやレンタカー会社窓口での観光情報サービスなど、地域の様々な情報サービスと連携することにより、地域ならではのきめ細かな観光情報の適時適所での提供を行っています。

また、車での周遊ルート計画を旅行者自身が手軽に作成できる「Myルートガイド」を開発し、これを県内30団体の観光サイトで共同利用することで、旅行者の自由な周遊計画の支援や、見知らぬ土地を巡る不安の軽減、ルート周辺に点在する埋もれた魅力を発見する楽しみなど、急増する個人旅行者に対応する着地での情報支援態勢を整備しました。

〔コラム〕

<事業の背景や経緯>

青森県では、2009年「作家太宰治生誕百年」と2010年「東北新幹線新青森駅開業」の2大イベントが重なり、まさに百年に一度のチャンスを迎えていました。

青森県は太宰治の生誕地であり、太宰の生家「斜陽館」(太宰治記念館:青森県五所川原市)のある奥津軽地方を、本県の通年観光の核と位置づけ、太宰を育んだ奥津軽地方の有形無形の魅力に触れてもらうべく、地域テーマパーク「太宰ミュージアム」としてブランド化するなど、県をあげた観光新興への取り組みが活発化していました。その情報発信において当NPO法人と奥津軽地域の関係団体の有志により先進的な情報支援のあり方が検討されました。

特に太宰治ファンに向けては、太宰治に関する地元ならではのきめ細かな情報はもちろん、太宰治を育んだ奥津軽の町並みや自然、歴史、文化、芸能に至る多彩な情報提供が必要とされました。さらに、二次交通を車に依存する当地においては、太宰が暮らし旅した奥津軽を車で自由に安心して巡ってもらうための周遊ルート案内が必要であるなど、先進的な情報支援サービスの構築が求められていました。

その課題にあたり、平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業として総務省の支援を受け、国内外の太宰治ファンと奥津軽をつなぐ太宰ミュージアム公式サイトの開設や、着地でのモバイルを活用した情報支援を行なうなど、奥津軽の埋もれた魅力を伝えるための先進的な情報支援態勢が整いました。

<Myルートガイド>

特に車での周遊ルート案内の支援として、観光サイトから複数の目的地を自由に選択するだけで、最短での訪問順序や移動時間・走行距離・移動ルートを自動作成できるMyルートガイドサービスが開発されました。

旅行者は観光サイト上で自分ならでの車での周遊ルートプランを手軽にシミュレーションできるとともに、名所はもちろんのこと、地点間の移動ルート周辺に点在する埋もれた観光資源の新たな発見により、大小織りまぜた立体的な周遊計画を作成できるようになりました。



特集4 地方創生に資する「地域情報化大賞」受賞優良事例

Myルートガイド：観光スポットを自由に選んで、車での最適な周遊ルート計画を作成



<県内への展開>

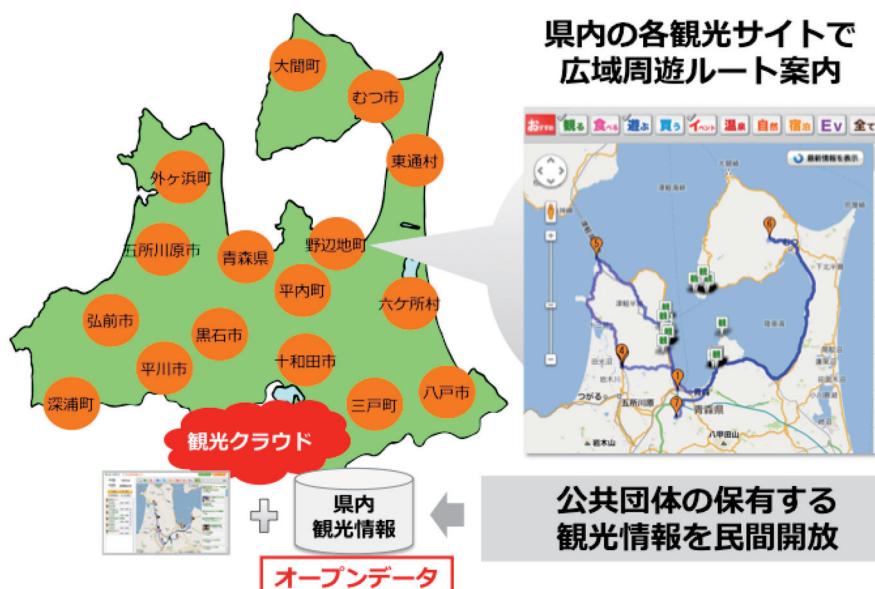
Myルートガイドの利便性は利用者や関係者から高く評価され、その後、県や企業の協力により観光クラウドとして共同利用できるシステムへと改良を行い、2012年にはマッシュアップ型のWebサービスとして青森県内の30団体の観光サイトで利用されるに至りました。

Myルートガイドの共同利用にあたり、自治体と民間企業の協働協定により、民間の非営利事業としてサービス運営されています。

現在、県全体では月平均で5700人(ユニークユーザ数)の利用実績が確認されています。

県内30団体で共同利用

県内の各観光サイトで広域周遊ルート案内



<観光情報のオープンデータ化>

Myルートガイドの県内での共同利用にあたり、青森県観光連盟などの公共団体が保有する観光情報を民間で無償利用可能な今で言うオープンデータとして提供されました。

これにより民間企業による先進の周遊ルート案内サービス(Myルートガイド)と、県内全域のきめ細かな観光情報が融合し、県内の30の自治体の各観光サイト上で、広く県内の周遊ルート案内サービスが提供できるようになりました。

<オープンデータの民間活用>

民間に開放された観光情報は観光クラウドに集積され、その後、モバイル版のMyルートガイドとともに地元レンタカー会社によるモバイル観光案内サービスとして活用されています。

地元ならではの豊富な観光情報を取り込んだ観光情報サービスが県内19店舗のレンタカー会社の窓口サービスとして提供され、二次交通の起点となるレンタカー会社が新たな観光案内所の役割を担う結果となりました。

また、公共団体からオープンデータとして提供された観光情報を活用することにより、観光コンテンツの収集コストや維持負担が解消され、観光におけるICTコストの低廉化にも貢献しています。

<住民参加>

また、民間の地域のお店情報サービス(サービス名:ぶらなび)を通じて、県内のお店や飲食店、体験施設など約600事業者が参加し、旬なおすすめ情報やクーポンなどがPCやスマフォから直接投稿されています。

このうち約400の事業者は、Myルートガイドやレンタカー会社のモバイル観光情報サービスを含む、複数の観光情報サービスと連携し、旅行者に対して地元ならではの旬なオススメ情報やクーポンを提供しています。

これにより観光スポットのみならず、地域の現場の生の声、旬な話題が、多様な地域情報サービスを通じてリーチされ、地域ならではの魅力の発見機会の創出につなげています。

レンタカー窓口で周遊観光案内サービス提供





<民間による事業継続>

これら青森県におけるいくつかの観光情報サービスは観光クラウド(地域のデータ連携基盤)と連携しており、その運営は地元レンタカー会社やお店、飲食店など複合的な事業者からのサービス利用料で支えられています。

初期の先進モデルの構築やその共同利用化は、総務省や県、企業等の投資によるものですが、その後、官民の情報の相互利用が民間事業としての経済価値を生み、民間主体で持続的、発展的に運営がなされています。

<波及効果>

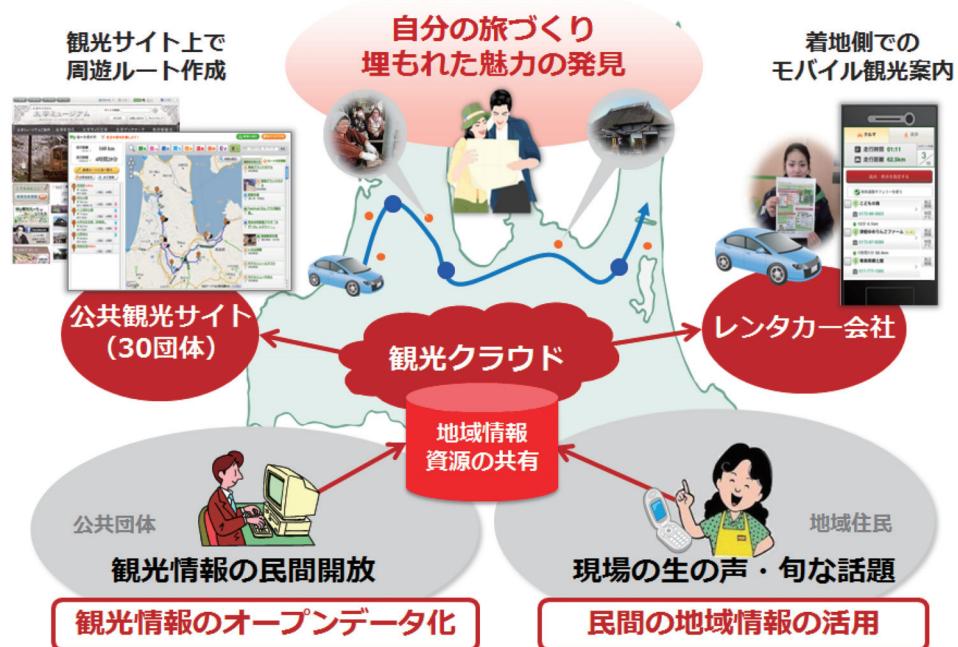
これら地域の情報支援体制の整備を含む、県をあげた観光振興への取り組みにより、平成23年度から平成24年度にかけて以下の効果が確認されています。(平成24年度青森県観光入込客統計より)

滞在時間:6%増加(宿泊客)

観光消費額:7%増加

また、Myルートガイドは2015年2月現在、青森県を含む全国13県55団体へと普及が進んでいます。

地域をつなぐ観光クラウドモデル



<これまでの取り組みを振り返って>

当事例でいう観光クラウドとは特定のサーバに一元的にシステム集約されているものではなく、地域の様々な情報サービス運営者やコンテンツホルダが、相互にデータ連携やアプリケーション連携しながら、総体として地域の情報連携圏を形成したもので、それを観光クラウドとして定義しています。

徐々にシステム的な一元化も進めておりますが、まずは今できる情報リソース間を相互に連結させながら、機会あるごとに連携サービスを拡充し、必要により一元的なシステムに移行していくなどを検討した方が、コストやリスクも低く、事業者間の協調面でも無理なく進められるようです。

その場合に重要なのは、異なる情報ステイクホルダ間の相互連携を円滑に進める中間セクタの存在です。

青森県においては当NPO法人がその役割の一つを担ってきました。

IT企業や行政関係者の有志がプロボノ（職業上の専門性を活かし無償で社会貢献する活動）として当法人に集結し、官民や組織の制約、枠組を超えた有志活動を続けてきました。そこで生まれた知恵と地域にある情報リソースを様々な事業機会を通じてつなぎながら、現在の観光クラウドが形成されました。

今後もオープンデータをはじめとする官民の地域コンテンツの相互利用や、地域情報サービス間の相互連携により、情報量や情報付加価値を増幅させ、地域の情報流通性の向上につなげていきたいと考えています。

<参考記事>

総務省HP 地域情報化の推進・普及展開として当事例掲載（現地取材動画あり）

「オープンデータ活用による奥津軽発の観光振興モデルが全国各地に展開」

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/promotion/index.html

(問い合わせ先)

団体名 特定非営利活動法人 地域情報化モデル研究会

〒030-0192 青森県青森市大字野木字山口245-9 富士通青森システムラボラトリ内

担当名 代表理事 米田 剛（総務省地域情報化アドバイザ）

TEL:017-731-0565

e-mail:ggh01057@gmail.com